

大分・福岡県境台風災害状況放送劇シナリオ

地域発・防災ラジオドラマ in 豊前の国 風水害編

前提条件メモ

台風一一号は種子島の南南西およそ一五〇キロの南シナ海海上を九州に向かって着実に進行していた。中心気圧が九三〇ヘクトパスカル、暴風域の半径およそ三〇〇キロという近年まれな強大な勢力で、平年より海面温度が高い日本近海ではその勢力が維持されることが予想された。すでに九州から本州にかけて伸びる梅雨前線の活動が活発で、福岡・大分県境に位置する豊前地域もここ数日、断続的な雨が降り続いている。山間地では降り始めからの雨量が三〇〇ミリに達しているところがあり、大雨や地震でも起きれば土砂災害が発生してもおかしくない状況であった。中津市内を流れる山国川も連日の雨で増水しており、河川管理を担当している国や自治体からは、無用に近づかないよう警報が出されていた。

気象庁は、台風は東シナ海を北上し、今後七二時間程度で九州に最接近し上陸する最悪のコースを予想し、発表した。

登場人物

㊦ 法人レスキュー・サポート九州代表	木ノ下勝矢（本名）
同	副代表 黒土俊也（本名）
防災士	高倉しげき（本名）
㊧ パーソナリティ	さかた せいこ（本名）
通院帰りの避難者	やまだ まさる（仮名） 小出健太郎
防災ボランティア	
市民 A 市民 B（Aの妻）	市民 C（Aの母）
通勤客 A 通勤客 B	
通学生 A 通学生 B	

解説（ナレーション）

独立行政法人・防災科学技術研究所では、災害時に地域に起きることを住民主体で考えるための方法として、地域の災害シナリオの作成を提案しています。災害シナリオは、行政が作成した各種災害の被害想定やハザードマップを下敷きにして、地域の「より細かい事情」を勘案して、災害時に実際に起きることを時間に沿って具体的に整理して記述したものを指しています。災害シナリオは、地域の関係者が具体的に自分たちの直面する事態を考える仕組みづくりのきっかけとなるものです。シナリオにすることで、事態の展開していくイメージが掴みやすくなり、必要な対応もわかりやすくなります。

プロローグ（ナレーション）

台風の接近に合わせて、各地でさまざまな取り組みが始まりました。中津でも市内を流れる山国川の安全管理はもちろん、公共交通機関の対応なども検討され、徐々に災害に備える体制が整いつつあります。しかし駅周辺に集まった帰宅困難者の人たちは、どこまで行政から支援が行われるか不安を口にします。およそ八年前の台風の時も、避難が後手に回り、結局多くの帰宅困難者の課題が発生したからです。

地域に拠点を持つ防災NPOであるレスキュー・サポート九州では、そう言う情報や支援の届きにくい人達からの要請を受けて安否確認やネットワークづくりなど、災害発生に備えた体制支援を考えております。そして徐々に風雨が強まる中、台風が熊本上陸したという連絡が入りました。

風雨の強まる音、窓ガラスがたがた言う音。

テレビ放送

接近を続けていた非常に強い台風一一号が、本日未明熊本天草地区に上陸した後、午前七時頃大分県西部付近に接近するコースをとるようです。現地からお伝えます。

住民A 「おい、いよいよきたぞ。」

住民B 「えーっ、この前みたいな水が出るのかね・・・」

住民C 「あたしや死んでもここから出んきね。」

住民A **SE 困ったように**「母さん・・・なんちゅう事を言うんね。」

住民C 「大丈夫さ、昔から水が出てても二階におれば水は引くから。ご先祖さまの位牌があるき、あたしや絶対にここから動かないからね。」

住民B 「そんなこつ言うけど、昔のとは規模が違うで」

住民C 「そんなこつねー、行かんちゃ」

住民A 「やれやれ困ったなあ、防災ボランティアに相談してみよう」

SE 強い風の音・人々の動く音・カナヅチの音 **レスキュー・サポート九州の事務室**

高倉防災士

「代表、今回は風台風と思ったら場所によってゲリラ豪雨が起きちゃうで」

SE 電話の呼び出し音

住民A

「もしもし、年寄りの避難支援お願いしますか？嫌がってこまっちゃうです」

RSK代表

「そうですか、他人の方が、素直に言うこと聞いてくれるかも知れんね、ボランティアさん派遣します」

高倉防災士

「そうちゃ、ここん人ち風にや準備が出来ちよるが大雨に弱いきなあ」

SEドアを開ける音

黒土副代表

「代表、今駅前を通ったら電車が停り通勤通学の人で大混乱しちよるで」

代表

「そんじゃあ、町内会は備えが出来ちよるき、駅に居る人んじょうが、困っちゃうき防災ボランティアを駅に集合させよう」

市内中心部を流れる小河川や、水路の水位が徐々に上がり始め、繁華街の一部では浸水が始まりでした。

午後6時ごろ、地域が一斉に停電してしまった。駅付近では帰宅のため駅にやってきた当面運行が見込めないことがわかると、いろいろなルートで帰宅しようと試みるようになってきた。

駅周辺は、一次避難者で大混乱している中、防災コーディネーターや防災士など地元の防災ボランティア達がやってきた

SE仲間たちに向かって大声で

代表

「避難する人はどんだけ居るかい」

ボランティア

「100人くらい居るね」

「これなら、駅前の大型スーパースタジアムに入れるんじゃないかな」

代表

「そうじゃな、お願いに行ってこう」

黒土副代表

「皆さん、Noレスキューサポート九州の黒土と言います。避難する場所が無い人は仲間たちと皆さんのお世話を致しますからご安心ください」

SEお願いしますの多数の声

やまだ まさる

「わしや、病院に行っち帰りじやが、血圧が高けえけんどつかで薬を飲んじ休みてえじやが」

高倉防災士

「今駅前スーパースタジアムを避難場所に提供してと頼んでます、その会議室に行きましょう。」

やまだ まさる

「わしや、もう動けん」

SE 苦しそうな息づかい

高倉防災士

「そう言わんと、背負き、掴まっち」

SE そこに、駅前の大型スーパ―に避難所としてホールや会議室を提供して欲しいと交渉に行って承諾を得て、防災コーディネータが戻ってきて移動を促す、その動きを見て皆が先を争うように動き出す。

黒土副代表

「皆さん、慌てないください。避難する人は、集まってください、介助が居る人怪我している人言ってください。」

代表

「今から確認のために、ガムテープに名前と連絡先を書いて胸に貼ってください」

通勤客 A

「スミマセン、北九州まで帰りたいじゃが、大分んこつ、しか分からんき家んこつが心配でこたえんき、なにか分からんやろうか？」

防災ボランティア 「慌てんで連絡先、名前を書いちよくれ」

通学生 A

「私、知り合いがいなし、お金もなく動きがとれないのでなんとかしてください」

通学生 B

「私も家族と連絡が取れなく学校にも戻れないのでどうしたいのか？ようか」

通勤客 B

「消防や役所に電話しても混乱してて情報が全く分からんから超不安、私がここにいる事だけでも家族に伝えちよきたいんじゃが？」

防災ボランティア

「ここにケガをしている人が居るぞ」

通学生 B

「今、ガラスで手を切ったの、応急手当でもしてください？」

高倉防災士

「消毒と圧迫包帯で応急処置が出来るが避難場所に行けますか？歩ける？」

通学生 B

「痛いけど我慢出来ます」

高倉防災士

「病院はケガ人で混乱してるから様子をみて病院に行きましょう」

通学生 B

「お願いします。出血さえ止まれば我慢できると思いますので」

黒土副代表

「他にケガしている方や気分が悪い方は居ませんか？」

代表

「ここはスーパ―さんの、ご好意で避難場所として提供されました。」

皆さん全員で出来ることは積極的に運営していきたいと思いますので、ご協力ください。」

SE 何でもやるがあった言ってくださいと言う声

高倉防災士

「ここは県境で隣町の災害情報は、ありません、皆さんの安否確認の、名簿を作りたいと思いますが賛成していただけますか？」

SE よろしく願いますの声

やまだ まさる

「他に使わんでね、避難確認だけにしてよ。」

黒土副代表

「名前以外の情報は出しません電話番号や住所の情報は出さないと言うことで了解いただけますか？」

通勤客 A

「よろしく願います。とにかく早くここに居ることを家族に伝えたいのですが。」

代表

「皆さん提案です、こん地域に2つコミュニティFMラジオ局ちゅうんがあるんよ、そこに連絡しち皆さんの避難しちよることを放送しちもろちから？安否確認になるんよ。ラジオ局のインターネットから豊前の国ポータルサイトにリスナーから入ってきている災害情報も、もしかしたら知ることが出来るかも知れんちゃね。いいかね」

FM パーソナリティ

「台風による被害の大きさがリスナーから入り始めました。風の被害と飛散物で怪我する事が考えられますので、風が収まるまで外に出ないでください。風が収まっても障害物が多いので注意してください。ただいま病院は負傷者で混乱しております。重傷者意外の診断はお控えください。また、駅周辺に居た人たちは、駅前の大型数ーパに避難しております。避難している方の名前を呼び上げますのでご安心ください」

やまだ まさる

「ここに来て薬を飲んだら、少し落ち着いた。福岡県の自宅が心配なのですが、そのあたりの被害情報はわかりませんか」

高倉防災士

ラジオ局に連絡して近くの人に呼びかけてもらいましょう」

FM パーソナリティ

「北九州の近くの方でやまだ まさるさん方の様子を知っている方は居ませんか、ひとり住まいと言うことでお父さんが心配していますし、

お父さんも元気に中津駅近くで避難していると言うことです。」

黒土副代表

「やまださん、奥さんは無事だと、自宅は瓦が飛んでいると言う事ですが、大きな被害はないちよ。」

やまだ まさる

「本当ですか、良かった。ありがとうございます。」

通勤客A

「私も、子どもが心配です何か情報は無いでしょうか？」

防災ボランティア

分かりました、連絡してみます」

パーソナリティ

「下校時の安否確認を行っています。どなたか情報をお持ちの方はGPS付きカメラで現場写真をラジオ局に送ってくださいポータルサイトにアップしますと多くの方が情報を知ることが出来ますのでお願いします。」

高倉防災士

「避難している皆さん、豊前の国ポータルサイトを見ると、下校の様子や被害の写真が確認出来ます地図にも通行止めなどが分かります。被害情報がどんどん入ってきました。」

パーソナリティ

「ラジオお聴きの皆さん。災害情報の提供ありがとうございます。今、最前線でボランティア活動を行った、防災士の高倉さんと電話がつながっております。台風が過ぎたあとの注意することを聞いてみたいと思います。防災士の高倉さん」

高倉防災士

被害現場です。電線がキレて下がっているものには絶対触れないでください危険です。風倒木や瓦、看板などの落下物には特に注意してください。台風が過ぎたあと濡れた畳や家具は産業廃棄物扱いになります。役所により対応が違いますので問い合わせる場所を確認してください。

後片付け作業の時は必ず、手袋、マスクできたらヘルメット、長靴は衛生上装備してください。釘の踏み込みは特に注意してください。水害後の破傷風や感染症など要注意です。後片付けのお手伝いが必要な方は防災ボランティアにお問合せください。現場から以上です」

パーソナリティ

「注意事項ありがとうございました。災害後の事故やケガなど多く発生すると言うことです。安全を確認しながら作業を行ってください。今後ともコミニティEM局と豊前の国ポータルサイトを利用して、日頃のはもちろん害時に威力を発揮したと思います。ご協力ありがとうございます。」

《ナレーション》

「台風一過、この地域の台風被害は大きかったのですが、平常時からコミュニティラジオ局や大型スーパー、病院などとの関係づくりが災害時の避難対応の上手進める一つの方法だと考えています。」

今回は、自助・共助の関係を取り上げました、自助としては、貴重品持ち出しはもちろん、停電など非常事態時の災害情報や飲料水、避難場所など信頼できる情報の確保には、行政などの広報はもちろん、ラジオ放送やノートパソコンの電源を確保しておきインターネットなどの情報を独自に入手することもお勧めします。

共助の関係は平常時からの研修や訓練が必要になります。

災害時の公助は、役所などに災害問い合わせが殺到し電話は、混乱し繋がりにくくなると思われます。

特に119番へのお問い合わせは、火災や救急の緊急通報用ですからお問い合わせは一般加入電話にお掛け下さい。

携帯電話での119番通報は、電波が途切れたり、特に県境地域では、地元ではない消防署に繋がる可能性がありますから、自分の居る場所や目標物を正確に伝えたと担当者が対応してくれます。

今後とも平常時の情報共有化を非常時に生かす活動が続けていきたいと思います。」

クロージング：ナレーション

このドラマは、住民をはじめ行政など地域のさまざまな関係者が協力して、災害時に想定される事態や対応について話し合い創作されたフィクションです。ドラマのシナリオづくりの過程では、地域社会の実態を調べ、かつ、行政の防災計画や防災体制、被害想定、ハザードマップ、マニュアルなどの公式な情報を参考にしていますが、社会的なシミュレーションとして、また、今後の改善の視点を盛り込むなどの理由から、意図的に事実と異なる設定をしている場合があります。

本ドラマに関するご意見、ご感想などを、独立行政法人防災科学技術研究所、またはNPO法人レスキュー・サポート九州までお寄せください